

STAGE+を楽しむ(160)(HP 収載)
—辻井伸行のバッハ、ショパン、ラフマニノフ—

1. 始めに

前報(159)に引き続き、STAGE+の辻井伸行によるバッハ、ショパン、ラフマニノフの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、辻井伸行によるバッハ、ショパン、ラフマニノフの演奏を選びました。

辻井伸行 プレイズ・バッハ、ショパン&ラフマニノフ

サントリーホール

2024年4月に日本人ピアニストとしてドイツ・グラモフォンと初の専属契約を交わしたピアニストの辻井伸行。本映像は、同年2月にサントリーホールで行われたリサイタルをライブ収録したものです。「楽興の時」と題したリサイタルは、ラフマニノフによる同じタイトルの作品を中心としたプログラムで、バッハの「フランス組曲」にショパンの即興曲など、多彩な楽曲が並んでいます。この充実した内容によって、辻井の音色の美しさ、表現の幅広さを存分にお楽しみ頂けることでしょう。

ソリスト:

辻井伸行 (ピアノ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ フランス組曲第5番ト長調 BWV 816

フレデリック・ショパン 即興曲第1番変イ長調 op. 29

フレデリック・ショパン 即興曲第2番嬰へ長調 op. 36

フレデリック・ショパン 即興曲第3番変ト長調 op. 51

フレデリック・ショパン 《幻想即興曲》嬰ハ短調 op. 66

セルゲイ・ラフマニノフ 《ヴォカリーズ》 op. 34-14

(アラン・リチャードソンによるピアノ編曲版)

セルゲイ・ラフマニノフ 《楽興の時》 op. 16

クロード・ドビュッシー 《版画》CD 108 より第1曲：塔

セルゲイ・ラフマニノフ

《幻想小曲集》 op. 3 より第2曲：前奏曲嬰ハ短調〈モスクワの鐘〉



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーターに対するCDクリーナーの処理を行っています。今回も、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンブ端子を装着しています。さらにアースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、Brooklyn DAC+と仮想アース Crystal Eとの接続にアースアキュライザーを使用し、今回、アースアキュライザーはAVドーナツの効果(3)で報告しましたようにAVドーナツを通しています。

バッハのフランス組曲第5番は、清らかな詩情にあふれた演奏です。

ショパンの即興曲第1番から第3番は、それぞれショパンらしい抒情性をたたえながら即興曲らしいウイットも見せています。

ショパンの《幻想即興曲》は、ショパンの曲の中ではロマンチズムを感じさせるダイナミズムがあります。

ラフマニノフの《ヴォカリーズ》は、ピアノ曲への編曲で初めて聴くもので、新鮮な印象です。

ラフマニノフの《楽興の時》は、ラフマニノフらしいメランコリックな抒情性を描いています。

ドビュッシーの《版画》CD 108 第1曲 塔は、アンコール曲のようで、エスプリの効いた絵画的な小品です。

ラフマニノフの《幻想小曲集》第2曲は、これもアンコール曲のようで、小粋な小品です。

以上、辻井伸行が、バッハ、ショパン、ラフマニノフ、ドビッシーと表情の異なる曲を弾き分けていることが、これまでの対策に加え、**Brooklyn DAC+**と仮想アース **Crystal E** との接続にアースアキュライザーを使用し、アースアキュライザーを AV ドーナッツに通したことで明快に聴き取れました。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、LAN ポートにフェルトダンプ端子を装着し、さらに **Brooklyn DAC+**と仮想アース **Crystal E** との接続にアースアキュライザーと AV ドーナッツを使用して見たことで、バッハ、ショパン、ラフマニノフ、ドビッシーとことなる演奏の表情の変化を感じ取ることができました。

以上